



本号の主な内容

- 2,3 面 特集 造園の安全衛生管理について
潜在的事故を含めた具体的な事故事例ほか
3 面 【学会の目・眼・芽】第 20 回 小木曾 裕
技術と学術の連携で造園界を活性化
4 面 2010 台北国際花博覧会視察ツアー報告
【緑滴】異業種参入について思う 吉岡 威



グランドプリンスホテル赤坂で開かれた新年造園人の集いで乾杯の挨拶を行う藤巻司郎会長

「新年造園人の集い」開催

新たな年の抱負を語る

2011 年新年造園人の集いが 1 月 5 日、東京・千代田区のグランドプリンスホテル赤坂で開かれた。会場には、造園関係者ら 500 人が集まり、開催に当たり、各界からの年頭の抱負が語られたほか、参加者相互の盛大な交流の場となった。

集いは冒頭、世話人を代
表して、丸田頼一（社）日本公
園緑地協会会長が挨拶。
「昨年は COP10 が名古屋
で開催され、緑の存在感が
示された。今後、行政、企
業、市民が協力して、この
流れを盛り上げていただき
たい。現実的なところで考
えると、緑化地域制度や緑
化施設整備計画認定制度、
地区計画など、現在の制度
をうまく使っても、一層の
緑化が可能だ。緑化施設整
備計画認定制度はすでに全
国で 26 カ所が認定されてお
り、屋上や壁面など様々な
緑化が進められている。地
区計画は全国 55 カ所で作ら
れており、1 区画の広さや
間隔が規定される。ここで
進めることで、低炭素で、
景観的にも素晴らしい街に
なっていくように思う」と、
年頭の抱負を述べた。

次いで、学界を代表し
て、高梨雅明（社）日本造園
学会副会長は、「今年の学
会の全国大会は、東京農
業大学で開催する。大会
は、2050 年の造園の世
界をテーマとしており、日
本の人口が減少し、世界で
は 25 億人増えると言われる
中で、造園がどう展開して
いくかを考えたいと思っ
ている。21 世紀は環境の世
紀といわれ、10 年が過ぎ
た。しかし、関係予算は平
成 9 年のピークから 6 割
減っている。COP10 で
は、SATOYAMA イニシ
アティブが提唱され、美し
さや文化や風土など多様な
価値を踏まえた空間づくり
を行う造園の考え方が取り
入れられており、これから
どう展開していくかがポイ
ントになっている」とこと
語った。

その後、環境省から渡邊
権が取り組んだ平成 23 年度
予算は、対前年度 18% 減と
非常に圧縮され、これまで
の縦割りの投資を抜本的に
見直し、横括りにして、「社
会資本整備総合交付金」と
して成立した。都市公園行
政は、人口が都市に集中し、
緑が失われてきた中で、都
市の緑の創出を担ってきた
といえるが、これからの都
市の緑をどう描くかといっ
たことから考える必要もあ
り、先にもいろいろ語られた
COP10 を踏まえた取り組み
が今後の大きな柱になっ
てくる。さらに、2001
年に国の省庁再編が行われ
てから 10 年が経ち、都市行
政の再編も検討されてい
る。様々な課題と変化があ
るが、今後もより良い都市
環境づくりに邁進してい
きたい」と述べた。

樹林

業界は、長引く不況のあおりを受け非常に苦しい時代が続いています。少し景気も戻りつつ安堵していたところにリーマンショックを受け、更なる試練が訪れました。

そのような中、右肩上がりに増えているのは、屋上、壁面に代表される特殊緑化の部門です。国土交通省の統計によると平成 20 年における屋上・壁面緑化の年間施工面積は、約 46 万㎡で、統計を始めた 8 年前（平成 12 年）の 3.3 倍となっています。

仮に平均施工金額が 1 ㎡当たり 2 万円強とすると、市場規模は約 100 億円ですが、今後はますます期待できる市場と考えられます。

屋上・壁面緑化は、CO2 削減、ヒート

アイランド対策など、環境面から国及び地方自治体にも認められ、緑化の義務化や補助金などにより支援されています。最近、屋上・壁面に続き駐車場舗装面の緑化も注目されています。

舗装面の緑化資材は、従来からあります。布なども補助金等の支援があり、ビルオーナーにとっては魅力ある環境対策となつて

理の難しさなどを理解していただけない人
かつコラボレーションし、環境対策全般を
推進するべきでしょう。

例えば、最近話題となっている EV 自動車の充電ステーションは、舗装面緑化や壁面緑化を組み込んだエコ充電ステーションなども提案されています。この場合、緑化はエコイメージで、地球にやさしいイメージを創ります。もし、全国にエコ充電ステーションが展開されるとなれば、膨大な箇所数になります。ただし、これらが、単なる緑化の施工のみにならないよう充電設備メーカーや自動車業界との連携が必要でしょう。

特殊緑化は、異業種との連携が必要

日造協理事、大島造園土木（株） 大島 嘉七



が、緑化の永続性という観点から不十分な

ものが多く、一部でしか利用されていませ

周知のように緑化には、数値で表現され

今、我々が必要なのは、環境イメージに

車場舗装面での試験施工を行い、環境面での効果や緑化の可能性を検証しています。都市部では従来の公園や街路樹に加え、天候（特に最近の異常気象）による維持管

勉強しお互いの工法、システムを尊重し、協働する緑化施工業にしたいものです。

平成 23 年度「技術情報共有発表会」鹿児島市内で開催

平成 23 年度の技術情報共有発表会を 4 月 28 日（木）、13 時～17 時、鹿児島市内の鹿児島東急インで開催します。発表会の後、交流会も実施します。

詳細は、随時「日造協メールニュース」等でご案内いたします。全国都市緑化がこしまフェアの見学と併せて、皆様のご参加をお待ちしております。

（連休前ですので、宿泊・交通機関等の早めの手配をお勧めします）

実現に向け、今年はとても大事な年となり、新しい戦
略へ向けての検討も今後 2
年を掛けて作業を進めてい
く。今後、地方自治体や民
間の取り組みが重要にな
り、市民や NPO など
様々なセクターでの活発な
活動が行われ、活動の取り
まとめ役として、造園界の
活躍が期待される」「新政
権が取り組んだ平成 23 年度
予算は、対前年度 18% 減と
非常に圧縮され、これまで
の縦割りの投資を抜本的に
見直し、横括りにして、「社
会資本整備総合交付金」と
して成立した。都市公園行
政は、人口が都市に集中し、
緑が失われてきた中で、都
市の緑の創出を担ってきた
といえるが、これからの都
市の緑をどう描くかといっ
たことから考える必要もあ
り、先にもいろいろ語られた
COP10 を踏まえた取り組み
が今後の大きな柱になっ
てくる。さらに、2001
年に国の省庁再編が行われ
てから 10 年が経ち、都市行
政の再編も検討されてい
る。様々な課題と変化があ
るが、今後もより良い都市
環境づくりに邁進してい
きたい」と述べた。

中締めは、大塚守康（社）ラ
ンドスケープコンサルタン
ツ協会会長が、「我々造園
業界のことを分かって貰う
には、もはや実践で示すし
かない。いくら造園の技術
や知識が優れているといっ
ても伝わらない。我々は、
緑と水と土、子どもの遊び
などを盛り込んだ、わかり
易いパッケージ商品を開発
し、積極的に売り込むこと
が必要だ。そして、その際
には、これだけのものをつ
くるには、これだけかかる
ということを明確にして、
安売りしない。人々が求め
るものをつくりだす力が
我々にはある。それを世の
中にわかり易い行動で示し
ていきたい」と述べた。

その後、乾杯は業界を代
表して、藤巻司郎（社）日本造
園建設業協会会長が、「先
ほどから、新年にあたって
の様々なお話を頂戴した。
ここに集う我々造園に関わ
るものは、こうしたお話を
踏まえ、ともに 2011 年

造園デザインコンクール表彰式を開催

日造協は 2 月 5 日、東京
都千代田区の弘済会館で、
第 37 回全国造園デザインコ
ンクール表彰式を開催し
た。

当日は、受賞者、審査委
員の方々をはじめ、文部科
学省、国土交通省からもご

特集 造園の

る。ナタなどの刃物やガンリンン1缶など、その時はちよつとした忘れ物かもしれないが、これらが大変な事故につながることもある。

●安全管理委員会の設置

管理業務の増大から12年

学会の目・眼・芽

第20回

今年の日本造園学会の全国大会のテーマは「2050年の造園の世界」となりました。COP10において西暦2050年が生物多様性の保全再生に向けたターゲットの年とされたことも鑑み、統一テーマが付けられました。東京農業大学で開催され、初日の5月21日は「ABE受審校」による造園教育の現状視察、22日は総会、学会賞表彰式・講演、ミニフォーラム、ポスター展示、シンポジウム等が行われ、23日には研究発表会、ポスター展示、24日は分科会という内容を予定しています。

造園施工業界の方々にも学会の企画運営に携わっていただき感謝するとともに、大会には是非お誘いの上多くの方々の参加をしていただきたく思います。造園界を取りまく課題解決や今後の有るべき姿に対するヒントを得ることもでき、造園CPDの取得にも有効な機会でもあります。詳細は現在検討中ですが、学会ホームページをご覧頂るか、事務局にお尋ねいただければ幸いです。

さて、造園学会の刊行物の一つに「造園技術報告集」があり、施工界の方々に馴染みがあるのかと思います。第1号は平成13年に刊行され、その後隔年の発刊がされ、現在第6号の発刊の作業中です。技術報告集の創刊は造園技術の振興に門戸を開くもので、施工業界の方々からの多くの投稿を期待していました。「論説編」と「技術報告編」があり、後者は造園建設に関わる技術を中心に、より広範な技術のうち価値ある有用な技術を対象としたものでした。スタートから第5号までを見ますと、近年、施工業界の方々からの投稿が伸び悩んでいます。

私は本来、造園の最終的なアウトプットは物作りであり、この技術を担うのは施工者であると考えます。公共工事は基本的に設計図に基づき施工されますが、施工方法や材料の選択や納まりなど、多くの部分で施工側の工夫に委ねられ、民間や個人の作庭などでは、施工者が設計から施工まで任されることもあり、自社の造園技術を存分に発揮する機会が多くなります。ここに多くの造園技術が集積されて

前に安全管理委員会を設置は難しい。運転手当を払っており、職員の許可を得て、免許センターから、交通違反のデータを得ている。これまで飲酒に関わる違反者がいないのが何よりだが、毎年該当者がいなかった。無事故無違反であった者を表彰しているが、スピード違反をしている者がおり、せっかちななど、人

●安全大会での表彰

社内の安全大会で、5年間無事故無違反だった者を表彰しているが、ある年、スピード違反をしている者がおり、せっかちななど、人

いると考えます。

多くの造園施工の工夫を凝らした結果、人の和む空間が完成した作品は貴重で作品は現地には残りますが、その後の作品の施工技術を他で活かしたり、参考にしようとした時に、後進や自分自身の為にもその技術の蓄積とめておくことが重要であり、その一つ一つの技術の蓄積は造園界に於いても貴重な資料になっています。

日本造園建設業協会と日本造園学会は平成20年に「造園・環境分野における社会貢献や人材育成を行うための包括協定」を締結しています。その中には、造園技術報告集の普及についての協力が盛り込まれています。言葉を換えれば、学術と技術の協力による造園分野の発展を目指すことがいままでは必要ではないでしょうか。

技術と学術の連携で 造園界を活性化

日本には伝統的な移植技術に立て曳き工法があります。施工の機会は今も少なくはなっていますが、貴重な技術です。剪定技術も様々で毎年の手の入れ方次第で、その後の景観は変わってきます。現場での施工者のノウハウは長年の経験と実績から構築されていると思います。これぞプロの技で、今以上に一般市民に知ってもらうことにより、造園の技術は適切な評価を受け発展できると考えます。

以前仕事において、建替団地の移植工事の際に、現場に想像以上の大型の重機が入り、住む人の為に大切な樹木を移植している姿を居住者が身近に見た時に、驚きと感謝をされていました。

日本庭園等の伝統的な施工技術をはじめ、大規模な造園工事、身近な維持管理までの奥深い造園技術は、環境時代の現在、重要で価値ある仕事です。これらを今以上に意義のあるものにする為にも、「一技術と学術の連携で造園界を活性化」することが必要です。これらを具体化するために造園学会への入会をお勧めするとともに、積極的な学会での活動や参加を御期待申し上げます。

最後になりましたが、日本造園建設業協会の益々の発展を祈念いたします。

（社）日本造園学会理事・（株）URリネージュ分任部長
（都市環境担当）
小木曾 裕

の資質と無関係ではない。こうした対応も安全管理に役立つのではない。

●作業員によるKY実施

以前、一般的なKY（Kiken Yochi）はやっていないが、現在は現場ごとに、この現場で何に気を付けたらいいかを作業員自身に示して貰うことにしている。

比較データはないが、効果があるように思う。

●現場の会話・巡回

直接的な安全対策ではないが、現場代理人に、職人さんと積極的に会話をしよう指導している。職人さんの資質を知るために役立ち、社内でもこれを共有すると、さらに効果的だ。ま

繁忙期や今後の安全対策について

年度末の繁忙期に、特に注意を要する点について

●現場任せでない対策を

年度末は、期日に間に合わせるべく、業者や作業員が増え、現場の人口密度が高くなる。しかし、特別な対策がある訳ではなく、通常の安全管理をきっちりやることが大切だ。忙しくなると、工程管理に気が奪われがちで、現場だけでなく、会社側も進み具合はど

うだと聞きたくなるのが心情的だ。だから、この時期は、安全管理について、現場任せではなく、現場を回り、進み具合ではなく、安全管

た、常駐ではない現場では、巡回し、また来ることを伝えておく、現場が引き締まると思ひ実行している。

●末端まで意識を共有

近年、ゼネコンなどの仕事は、いろいろな書類があり、安全対策も事細かに指示されている。しかし、末端の作業員までこうした安全意識を共有することは難しく、慣れなどの部分で、事故を起こしてしまうことがあるというのが現状だ。

●参考になる実際の話

身近で実際にあった事故の話は、現場代理人や作業員に、大いに参考になる。安全管理を他人事のように思っている者もあり、安全

●有効性の理解求める

建築の現場などでは、危

なる。

について一方的に話しても伝わらない。一歩間違えたら重大事故という潜在的事故からも学ぶことは多い。

●安全対策の提案も必須

現在、労働基準監督署が認めているのは、安全帯と高所作業車の使用だ。建設一般の安全ネットを張るのは現実的ではないし、費用も計上されていない。

造園の現場には、安全帯を掛けられない樹木、高所作業車が入れない場所が現実的に存在し、安全対策が求められている。

しかし、安全を監督する機関が対策を有している訳ではなく、実際の作業員が、安全を検証し、その結果を監督機関に認めて貰う形に

●有効性の理解求める

建築の現場などでは、危

事をしたからといって次の仕事に繋がらない現在、目の前の仕事をいかに手早く行うかに注力しがちだ。しかし、工程、品質、安全はワンセットで、どれが欠けてもいけない。また、工程と原価は常に頭にあるが、品質と安全が置き去りにされがちなのは、大きな問題。安全を損なう、事故の発生は一番のリスクであり、それこそ発生したら、すべてが失われてしまう。

年度末は短期や新規で現場に入ってくる人が多い。短期だと意思疎通の機会も不足しがちだが、こうした時期こそ、より慎重な安全管理が求められる。

●この時期こそ慎重に

年度末は短期や新規で現場に入ってくる人が多い。短期だと意思疎通の機会も不足しがちだが、こうした時期こそ、より慎重な安全管理が求められる。

●改めて「安全第一」を

無事故で、いい仕事をし

ていけば、次の仕事があるという時代は、工程、品質、安全をワンセットで考えることができた。事故を起こしたら終わりが、いい仕

事をするという時代は、工程、品質、安全をワンセットで考えることができた。事故を起こしたら終わりが、いい仕

事をするという時代は、工程、品質、安全をワンセットで考えることができた。事故を起こしたら終わりが、いい仕

り一層の注意が必要だ。

●資格更新で安全講習

『街路樹剪定士』の資格更新講習時に、安全管理についての強化を行うことも考えられる。

●持ち物すべてに紐

壁面緑化の管理の際に、持ち物すべてに紐をつけ、落下防止を図り、発注者に葉が落ちることだけは承諾して貰うようにしている。

●刈払時の飛石防止柵

街路樹など、道路に関わる作業に注意を要するが、中でも中央分離帯での刈払機による石などの飛散対策として、いわゆる玉除けなどを使用し、防止している。

●協会としても対策検討

日造協としては、『街路樹剪定士』の安全管理を含めた技術の向上を更新時を含めて行うことをはじめ、職長、現場代理人、経営者に至る安全管理衛生への意識の普及を図り、加えて、保険加入といったリスク管理などについての案内、さらに、例年行っている「技術情報共有発表会」などにおいて、安全をテーマにした研究や活動を発表してもらうなど、いろいろな部分で協会としてのスキルメ

リットが活かせる筈だ。まずは、潜在的事故も含めた情報収集など、実施可能な対策から、順次進めていくことを期待したい。

●発注の改善も一案

入札については、いろいろな課題はあるが、発注者側も従前に比べ、手間が掛かるようになったようで、剪定適期の6月に作業を開始することが難しい場合もあ

●適正工期が安全対策

適正工期は、安全にもつながり、植物をはじめ、より良い環境づくりに役立つため、発注者側のさらなる理解を求めたい。

ポイントは、資格を持った技術者による作業と、適正な価格。そして、その作業を評価できる体制や人材であり、発注機関における造園に関わる職員増が、安全対策に繋がると思う。

入札については、いろいろな課題はあるが、発注者側も従前に比べ、手間が掛かるようになったようで、剪定適期の6月に作業を開始することが難しい場合もあ

協会だより

総支部、支部、事務局からの
記事を紹介します

台北国際花博覧会とは

APH (The International Association of Horticultural Producers: 国際園芸家協会) が認定する国際園芸博覧会として台湾では初めて (アジアでは7番目) の開催となる博覧会であり、テーマを「彩花、流水、色鮮やかな新世界」として、圓山公園、美術公園、新生公園、大佳河濱公園など91.8haの会場面積で、2010年11月6日から2011年4月25日まで開催されている (写真1)。

台湾と日造協

日造協は、国際園芸博覧会の認証機関であるAPHの日本代表会員機関であるとともにアジア地区の代表会員でもあり、台北花博覧会の開催に際しても会場計画や運営企画にアドバイス等を行ってきた。また、街路樹剪定講習会や造園技術などを通じての交流もあり、今回の視察ツアーにも

博覧会会場の視察

台湾 APH代表であり博覧会事務局長でもある鍾國成氏の丁寧な説明を受けたあと、美の競演館、国際出展エリアの日本出展、未来館など人気のパビリオンを中心に視察した。

国際出展エリア

には、浜松市、福岡のNPO遠東亜太交流センター、埼玉の安藤龍二&NPO地域環境緑創造交流協会の3庭園が出展され、日本の庭園デザインに多くの来場者が関心を寄せていた。

交流会

24日の交流会には、中華民国景観工程公会 謝理事長はじめ、国立台湾大学 李名誉教授、許教授、中華民国景観学会 蔡秘書長など博覧会・造園関係者10名以上が参加し和やかに開催された。

2010台北国際花博覧会視察ツアー報告

2010台北国際花博覧会視察ツアーは、全国各地から発着できて自由に行動できる気軽なツアーを提供しようという国際委員会の企画により募集し、2011年1月22日から26日にかけて、全行程、短縮行程など、藤巻会長、林副会長、執行九州副総支部長ほか総勢46名の参加者により実施した。(技術調査部長 野村 徹郎)

る市民意識の高まりにも応えるよう、都市の再整備をコンセプトに盛り込んだ環境負荷の少ない会場計画が行われている (写真2)。

台湾側のAPHやTFDA (台湾花卉発展協会、中華民国景観工程公会、台湾景観学会など多くの造園関係者の協力により、博覧会場へのスムーズな入場や会場内の説明、混雑しているパビリオンへの優先入場、造園工事現場視察などの配慮をいただいた。

プロフェッショナルツアー

造園事情視察

景観工程公会の協力により台湾の造園技術や造園工事現場の視察を行った。台北市内では、銀行の庭園、ホテルの屋上緑化など造園工事事例を視察。台北県郊外の三鶯地区ではゴミ処理場跡地の公園建設現場、歴史的街並み保存地区である三峡老街を視察した。

視察先では、担当者から説明を受けることができ、参加者からは活発な質疑応答がされていた (写真3、4)。



写真3 視察先では「日造協歓迎」の横断幕も用意されていた



写真4 ゴミ処理場跡地の公園は現地発生材を活用したエコロジカルな計画

委員会等の活動

新法人移行検討プロジェクト会議

新定款案の作成に向けて記載事項のチェック等を行った。(2月4日)

技術委員会技術情報部会

技術情報共有発表会、技術情報共有システム等について審議した。(1月14日)

総務委員会広報部会

広報日造協2月号から3月号、40周年記念事業などを審議した。(1月17日)

日造協ベストセラー 技術者必携

「造園安全衛生管理の手引き」販売中

本書は平成20年に改訂し、新たな情報に加え、造園作業の実態を踏まえた作業別安全基準なども収録。日造協ホームページをご覧常にご手元に置き、安全衛生管理にお役立てください。

異業種参入について思う

景気低迷の影響か、あるいは環境の時代なのか、緑化業界への他業界からの参入についての話しをよく耳にする。食品大手の壁面緑化参入は周知のとおりである。電気業界の企業が屋上緑化や壁面緑化事業へ参入を表明。石油業や印刷業の企業が植物材料の販売へ参入など。かつては、バブル景気のころ大企業の造園参入もあった。



緑の水滴

迎え撃つ造園業界はどうか? 資本、組織力ではかなわないが、異業種ではわからない知識と技術がある

園芸療法、ヒーリングなどの分野

独特のバランス感覚、経験に基づく「感」など。木と話をするなど

は異業種の人には理解できないだろう。これらのことが我々の強みである。しかし、造園業界が異業種へ参入するには、先に述べた我々の強みを発揮させることである。我々造園業界人が造園・植物の持つ魅力、可能性に気づき、「異業種ではわからない知識と技術がある」と明言できるものを確立することが異業種参入の早道だろう。この方法であれば巨額の投資は必要ではなく、造園業界のみが出来る異業種参入の方法である

入した話は少ない。

これまでの知識や技術で異業種に比べれば植物を扱う農業、林業あるいは自然・環境にまつわる部門への参入のハードルは高くない。

園芸療法、ヒーリングなどの分野

日造協賛助会員の紹介 27

(株)リーベ

当社は、価格競争に巻き込まれない差別化商品を生産・販売している。造園・建設関係の業者様へ「卸



販売」を行っております。主力商品の天然木ウッドデッキ、枕木、郵便ポストは国内トップの販売量を誇ります。

また、PB商品 (オリジナル商品) の開発にも力を入れ、造園業者様からも付加価値の高い差別化商品に対して高い評価をいただいております。

さらに、当社の高い集客ノウハウを生かし、造園業

者様へ施工案件紹介も行っております。

■取り扱い商品: 天然木ウッドデッキ材 (ウリン、イペ、セランガンバツ、サイプレス、レッドシダーなど)、枕木 (中古・新品)、人工木・木製フェンス、表札、郵便ポスト、石材、タイル、塗料、塗り壁、オーニング、ガレージなど。

ホームページ: www.leebe.co.jp
連絡先: 法人営業部 0474-709501

事務局の動き

【1月】

- 5 (水) 新年造園人の集い
- 11 (火) 新年造園界の集い
- 14 (金) 登録造園基幹技能者講習 (東京) 21 (金) 特別講習 (東京)
- 17 (月) 総務委員会広報部会
- 20 (木) 登録造園基幹技能者講習 (東京) 21 (金) 事業委員会正副委員長会議
- 22 (土) 第37回全国造園デザインコンクール審査会
- 26 (水) 台北花博ツアー
- 27 (木) 建専連会員団体事務局局長会議
- 31 (月) 街路樹剪定ハンドブック編集委員会

【2月】

- 3 (木) 運営会議
- 4 (金) 九州総支部交流会
- 5 (土) 第37回全国造園デザインコンクール表彰式
- 7 (月) 総務委員会広報部会
- 8 (火) 総務委員会財務部会
- 9 (水) 関東・甲信総支部交流会
- 10 (木) 地域リーダーズ会合
- 14 (月) 総支部長等会議
- 15 (火) 新法人移行検討プロジェクト会議
- 16 (水) 造園・環境緑化産業振興会セミナー
- 17 (木) APH Antalya Expo (トルコ) 査察 (和田国際委員長)
- 18 (金) 北海道支部交流会
- 22 (火) 造園施工管理技術検定委員会
- 23 (水) 事業委員会公益活動部会
- 24 (木) 街路樹剪定ハンドブック編集委員会
- 基幹技能者制度推進協議会



写真1 壁面緑化で作られた博覧会ゲート



写真2 既存のサッカースタジアムのスタンドを活用した花修景

博覧会の会

博覧会の会